

人材育成、資格支援ニーズに対応

対面でのスクーリング



近畿大学の建築学部オンライン学士プログラム

26年度入学者を募集

近畿大学は、通信制大学で唯一、建築学の学士と1級建築士などの受験資格を得られる通信教育課程「建築学部オンライン学士プログラム」の2026年度入学者を募集している。建設業界では企業の人材育成や資格取得支援が大きな課題となっており、リカレント・リスキリング教育のニーズは確実に高まっている。それを背景に開設初年度となった25年度は定員600人を大きく上回る約1,400人が全国から入学するなど、業界内で注目を集めている。

高卒者を対象とする1年次入学は4年間、大卒者を対象とする3年次編入学では2年間で修修できるカリキュラムが組まれているが、通信制だけに学費は私立大学（通学制）の20%程度と非常に安く設定されている。

1年次入学で4年間合計125万4,000円、3年次編入は2年間合計68万2,000円となる。

学修方法は、テキストを使った自学自習、大学で独自作成した高品質なオンライン授業、設計演習するスクーリングがある。eラーニングが主体となり、好きな時間にどこからでも視聴できる、分からぬ部分は何度も見直せるといった利点はあるものの、孤独や孤立を感じやすい面もあるため、スクーリングは対面でも学べる。会場は大阪、東京、福岡で、学生が一堂に会し、直接講師からの指導を受けられるため、モチベーションの維持・向上につながっている。

社会人が本業を抱えながら学士を取得するのは容易なことではない。25年度入学の長田和真さんは仕事をと子育てをしながら、学士と1級建築士の取得を目指し、毎日子どもを寝かしつけた後に3~5時間程度学習している。「家族や職場の協力を確保することが重要で、忙しい

25年度は全国から約1400人入学



山隈教授（左）と駒田教授

自分に合った学修方法でスキル向上

ただ、学習に充てられる時間は人によって異なる。4年間、2年間で学修できないケースも想定し、年間3万円のみで在籍延長できるよう配慮もしている。山隈直人教授は「いろいろな学生のニーズや思いを受け止められるメニューをそろえている。忙しい人が自分に合った学修方法や内容、ベースを選べることを重視している」と説明する。

実践的な内容となるよう、演習系の授業にも力を入れており、現役で設計の仕事に携わる建築家が講師を務める。駒田由紀子教授は「いろいろな地域活性化に貢献したい」とビジョンを描く。



長田さん

26年度入学の出願期間は、前期入学（学修開始4月1日）が2月1日から4月10日まで、後期入学（同10月1日）が8月1日から9月30日まで。ただし、募集状況によって早期に打ち切る可能性もある。山隈教授は「建築のファンを増やし、将来的に設計事務所を開いてくれるような人材を育成したい」と力を込める。駒田教授は「建築は奥深く楽しいもの。バランスの取れた勉強ができる環境を整えているので、興味を持たれた方はぜひチャレンジしてほしい」と呼び掛けている。

定員は、1年次入学が100人、3年次編入が500人であるが、25年度と同様に定員を上回る応募・入学者になることが見込まれている。25年度は全47都道府県から入学があり、関西の2府4県より、関東1都6県の方が人数は多かった。平均年次編入が38・6歳だった。

香教授は「建築を学ぶ人は社会性も求められる。そういった考え方を含め、実務に基づく経験を伝えるよつ心掛けている」という。

長田さん

は

じ

く

さ

う

な

い

う

う